

令和5年度
盛岡医療福祉スポーツ専門学校
自己点検・評価委員会結果報告書

令和6年3月

令和5年度自己点検・評価結果報告について

ここに学校法人龍澤学館盛岡医療福祉スポーツ専門学校の自己点検・評価結果を公表いたします。

令和6年3月30日

学校法人 龍澤学館

理事長 龍澤 尚孝

自己点検・自己評価実施日 2024年3月29日(金)

1. 学校の教育目標

- 1 専門分野の知識と技術を正確に習得する
- 2 社会人としてのマナーを体得・実践する
- 3 生命に対する尊厳を養い、真の優しさを身につける

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1 多職種連携授業の連携継続による協働と深化

- 2 退学者(率)の防止と減少について、継続して取り組む。退学率3%以下を目標とする。

- 3 卒業生を対象としたセミナー、意見交換会の全学科実施に向けて継続して取り組む。

- 4 業界の経営者団体、職能団体等との連携をより深め、学校全体が社会資源の一機関として地域の医療・福祉に寄与する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

※適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1

(1) 教育理念・目標

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の理念・目的・人材育成像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
2	学校における職業教育の特色は何か	4
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
課題	社会に必要とされる人材育成にあたり、学生に対する支援・指導方法が多様化してきている。	
改善策	学生や保護者の意志を汲み取りながら、適切な進路へ導けるよう入学前から一緒に考えていく場を設定する。また、人材育成にあたり、業界のニーズを教育課程編成委員会外部委員からご教示いただき、カリキュラムに反映させていく。	

(2) 学校運営

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
4	人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
課題	教務と広報の垣根を超えて、学生の学びの発信やガイダンスの参加など行っているため、それぞれの業務は多岐に渡っている。情報システムについては、紙ベース資料も多く引き続きデータ化を加速させていく必要がある。	
改善策	職員一人当たりの業務量の見直しおよび効率化を図り、人事評価を適切に運用していく。データベース化は、学校単体ではなく法人全体として引き続き推し進めていく。	

(3)教育活動

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
2	教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
6	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
7	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4
課題	業界のニーズやトレンド、高校生が求める情報と組み合わせたキャリア教育が求められている。	
改善策	教育の質向上のため、各分野積極的に外部研修に参加する。研修で得た情報は、分野を問わず情報共有し、教育活動に活かしていく。	

(4) 学修成果

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	就職率の向上が図られているか	4
2	資格取得率の向上が図られているか	4
3	退学率の低減が図られているか	3
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4
課題	退学理由は様々ではあるが、不安解消や制度の紹介など福祉の学校ならではのサポートを常に行う必要がある。	
改善策	令和6年度は担任制から学科担当制に変更し、より相談しやすい環境づくりを行う。さらに学生の困りごとに対して複数教員でサポートし、適切な支援につながるよう外部との連携も深化させていく。	

(5) 学生支援

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
6	学生の生活環境への支援は行われているか	4
7	保護者と適切に連携しているか	4
8	卒業生への支援体制はあるか	3
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
課題	卒業生への支援体制として、社会福祉学科卒業生に対する国試対策講座を開講しているが認知度が低い。	
改善策	国家試験対策講座については、卒業式後3月から講座開講し定着化を図りつつ、SNS等での情報発信頻度を上げていく。	

(6) 教育環境

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
3	防災に対する体制は整備されているか	4
課題	海外研修を行っていない。防災に対する体制として、施設設備は必要十分ではあるが、突発的な変化に対応することが不得手な学生を含めた避難訓練は改善が必要と考える。	
改善策	海外研修については、多文化共生について学ぶ機会を提供する計画にとりかかる。避難訓練として最低年1回実施は継続することとし、事前告知をするなど実施方法を工夫する。	

(7) 学生の受入れ募集

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	学生募集活動は、適正に行われているか	4
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
3	学納金は妥当なものとなっているか	4
課題	健康・福祉分野を志す高校生が減少の一途をたどっている状況。オープンキャンパスやHPでは職業理解を、SNSでは学生生活の様子を公開しているが苦戦が続いている。	
改善策	高校生や社会が欲しい情報と、発信している情報が合っているかデータ分析を行いながら、ニーズに合った情報提供ができるよう創意工夫を重ねていく。	

(8) 財務

	評価項目	自己点検・ 評価結果※
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4
課題	—	
改善策	法人本部で適正に管理・実行しており、財務情報についてはすでにホームページで情報公開している。	

(9) 法令等の遵守

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4
課題	法令等適切に遵守し、運営を行っている。個人情報保護については継続して教職員の意識向上を怠りなく徹底していく。	
改善策	第三者評価の実施に向け、継続して仕組み作りをグループ全体で構築していく。	

(10) 社会貢献・地域貢献

	評価項目	自己点検・評価結果※
1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
3	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4
課題	社会貢献・地域貢献については、ボランティア活動や授業の一環として参加している。授業や実習のスケジュールの都合から、学科によってボランティア活動の頻度＝経験値に差が出ている。	
改善策	人間力を高める活動として社会貢献・地域貢献・ボランティア活動を引き続き推奨する。さらに、「まちなかキャンパス」と題して、全学科で社会貢献・地域貢献活動ができるようカリキュラムに組み込み実践していく。	

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

学校関係者評価委員会、及び、教育課程編成委員会における提言を教育活動の改善につなげる仕組みは、教育の質の向上につながってきている。また、学生授業評価、ルーブリック評価を継続して行い、学生の状況をよりの確に把握し、満足度の高い教育活動が継続できている。

社会貢献・地域貢献活動や学生募集活動を通して、「ニーズ」について再認識する機会が多い1年となった。福祉・医療・スポーツ・こどもの4分野すべてにおいて、人材不足が続いているため、学校としてよりよい人材育成を継続することで社会貢献していきたいと考える。

さらに、各課題への対応は、改良を重ね継続して改善を図っていく。

令和5年度 盛岡医療福祉スポーツ専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

開催日：令和6年6月18日（火）15：00～16：00

於：MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校

1. 出席者

委員長	社会福祉法人 潤沢会	理事長	高橋 典成
副委員長	株式会社システムエイド	常務取締役	中舘 勝寿
外部委員	学校法人聖公会盛岡こひつじ学園 仁王幼稚園	園長	曾根 美砂
外部委員	公益財団法人 盛岡市スポーツ協会	事務局次長兼総務課長	山田 学
外部委員	医療法人楽山会はまゆり在宅介護支援センター	卒業生	鳩岡 貴士
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	校長代理	佐々木 純子
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務課長	竹内 愛美
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務主任	山田 健太郎
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務主任	伊藤 優汰
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務	湊 和美
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務	寺倉 直弥
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務	大富 和弘
委員	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	教務	西山 直輝
書記	MCL 盛岡医療福祉スポーツ専門学校	事務局	川原 裕子

2. 委員会次第（概要）

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 状況報告（就職状況報告・入学者状況・教務関連報告）
- (4) 令和5年度自己点検・評価報告
- (5) 討議・意見交換
- (6) 閉会

3. 討議・意見交換について

令和5年度の就職実績、今年の入学者状況（昼間部・通信教育部）の報告、教育の質向上の取り組み、改善点について報告した。自己点検・評価結果について達成状況、改善策について報告しそれに対し外部委員の皆様から質疑応答、意見交換を行った。

(1) 教育理念・目標について

課題としている学生に対する支援・指導方法が多様化していることについて、個々に合わせ

生活面の指導を学校内外で丁寧に行っていることを報告した。

(2) 学校運営について

MCL グループとして統一化が図られ法人全体で効率化、ペーパーレス化に取り組んでいることを報告した。

(3) 教育活動について

社会の時流、ニーズに合わせたキャリア教育への一層の努力を今後も学校全体で取り組んでいくことを報告した。

(4) 学修成果について

パンフレットに卒業生を掲載し、活躍している卒業生から職業の将来性や可能性について表現することで、学校だけでなく職業理解に繋がる工夫をしたことを報告した。

(5) 学生支援について

国家試験対策として卒業生だけでなく卒業年次から取り組み、受講率・合格率が少しずつ上がったことを報告し引き続き卒業生へのサポートを継続していくことを報告した。

(6) 教育環境について

海外研修について学生にアンケートをとり、実現できる方向で進めていきたいと報告した。防災体制については、多様な学生が在籍していることから避難訓練の実施方法を工夫することが課題であると報告した。

(7) 学生の受け入れ募集について

『学生募集活動について』、少子化の影響を受け苦慮していることについて、外部委員より生徒数増加につながるデータの分析はどうなっているのかとの質問に対し、SNS、資料請求、ガイダンス参加者、オープンキャンパスのアンケート等、多角的に広報部を中心に分析を進めているが実績に繋がらない現状を伝えた。

外部委員より「卒業生から発信してもらおう募集活動を取り入れてはどうか」との意見に対し、SNS 等で高校生だけでなく保護者からの理解を得られるような情報発信を取り入れ競合校との差別化を図りたいと述べた。

(8) 財務

財務に関する自己点検・評価の結果に関して特に問題は無く、外部委員より了承をいただいた。

(9) 法令等の遵守について

第三者評価の実施に向けグループ全体で取り組んでいくこと報告した。

(10) 社会貢献・地域貢献について

令和6年度からグループ全体の取組として「まちなかキャンパス」と題し街の中で、市民講座を開催し学科の特長を活かした社会貢献、地域貢献を目指すことを報告した。

7 まとめ・その他

外部委員より、リアクションペーパーを有意義に活用して充実した教育活動に繋げて欲しいとの意見があった。また、留学生の受入れ体制を整えておく必要があるとの意見も出され、今後、受入れ事業所を増やすためのセミナー実施予定であることを報告した。

続いて外部委員より、担任制から担当制に変わったことについて変化があったかの質問に対し、内部委員より「複数の教員が関わることでスムーズに学生対応が可能となった、学生自身も担任だけに依存せず積極的に教員と関わるようになったと感じている反面、複数の担当者があることで対応の違いや混乱を招かないよう教員同士が連携する必要性も感じしており今後も工夫を凝らし学生支援していきたい」と述べた。

来年度の学校関係者評価委員会では、学生数が増加したことをご報告できるよう教職員一同尽力いたしますので引き続きご指導をお願いしたい旨お伝えし閉会とした。

以上